

(様式第1号)

令和元年度第1回 芦屋市文化財保護審議会 会議録

日 時	令和元年6月5日(水) 15:00~17:00
場 所	阿保山親王寺・阿保天神社・上宮川文化センター
出席者	委員長 安部 みき子 副委員長 戸田 清子 委員 森 隆男 委員 中江 研  【欠席委員】 委員 長谷 洋一  【事務局】 社会教育部長 田中 徹 生涯学習課長 茶嶋 奈美 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋 生涯学習課文化財係学芸員 森山 由香里
事務局	生涯学習課
会議の公開	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 会議の冒頭に諮り、出席者4人中4人の賛成多数により決定した。 [芦屋市情報公開条例第19条の規程により非公開・一部公開は出席者の3分の2以上の賛成が必要]  <非公開・一部公開とした場合の理由> 審議の内容に法人情報が含まれるため、一部公開とする。
傍聴者数	0 人

1 会議次第

- (1) 芦屋市指定文化財親王寺所蔵考古資料一括の現状について
- (2) 芦屋市指定文化財候補(阿保天神社力石)について
- (3) その他

2 提出資料

- 資料1 芦屋市文化財保護条例  
資料2 市内指定等文化財一覧  
資料3 市指定文化財親王寺所蔵考古資料一括 概要  
資料4 市指定文化財候補 阿保天神社 力石 調査経過報告

### 3 審議経過

#### 【議題1】 芦屋市指定文化財親王寺所蔵考古資料一括の現状について

<安部会長>

それでは、議題①について、事務局より説明をお願いします。

<事務局：竹村>

親王寺所蔵考古資料一括のうち、銅鏡・銅鐸についてはブロンズ病にかかっているため、本審議会でも実物を確認していただきたいと思います。

<事務局：森山>

資料3に基づいて説明。

<事務局：竹村>

銅鏡等の保存につきましては、今後、芦屋市文化財保護条例に基づき、所有者と協力しながら検討していきたいと思います。

————阿保天神社へ移動————

#### 【議題2】 芦屋市指定文化財候補（阿保天神社力石）について

<事務局：森山>

資料4に基づいて説明。

<森委員>

市町レベルでの文化財としては指定すべきと思います。

芦屋市内にこういうものがあるということ自体、私は非常に面白いと思うし、コンクリートから離すことができたという前提ですけど。

簡単ではないと思いますが、一度、実際の重さを量っていただきたいです。当時、一人前の男性に対して、何が求められたかが、数量的に把握できますので。

力石は、お祭りの日に持ち上げることで、この村の共同体の中の一人前ということをもみんなに認めさせるものです。かつて、漁村や山村・農村の社会では、力を持った男性が村を支えるわけですから。その基準がこの重さ・数値になります。

<事務局：森山>

重さの刻印があるもの以外も、実際に力石なのでしょうか。

<森委員>

おそらく、重さの刻印のある石2つは、祭りで使う正式な力石で、その他は練習用の力石だと思います。正式な力石は儀礼の石・神聖なもので、普段は触れないものなのだと思います。練習用も含めた6点が揃って価値のあるものだと思います。

芦屋の農村の民俗社会の有り様を示す良い資料です。

<事務局：竹村>

芦屋は郊外住宅地になってからのイメージ強いので、農村の頃の芦屋の資料があるのは面白いです。

———上宮川文化センターへ移動———

<事務局：竹村>

先程現地で力石を見ていただきましたが、これについて、改めてもう一度、森委員の方から述べていただけますでしょうか。

<森委員>

力石というのは、農村・漁村、山村の村落社会の中で、かつての若者組、若衆組などの若者組の組織がある程度存在したところで、祭りの時に村の人達が見てる前で持ち上げることによって、一人前として認めてもらう儀礼に使用されました。

一人前として認められることは、例えば結婚する資格などになったわけですから、私達が考える以上に、力石は男性にとって非常に大事な意味があったわけです。

村にとっても、防火や防災、あるいは村同士の争いなども含めて、男性の力に頼る部分がありましたので、将来村を支える人的支援として、一定の力を持った男性が求められたわけです。それが芦屋に残っていたという点で、非常に面白いと思います。

それから、今日初めて6点見せていただいたんですが、おそらく「五十ヰ」、「四十二ヰ」の刻印のある2点は、正式なお祭りの場で、神の前で持ち上げたもので、残り4点は練習用かもしれません。

祭りが近づくと、男達が夜にこっそり集まり、トレーニングをしたはずです。そういう、かつての村社会の有り様を探ることができるという点でもですね、民俗文化財として価値があります。芦屋市域の中で民俗を探る上での貴重な文化財という意味を持っているという風に思っております。先生方の方からも是非、ご意見を頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。

<安部会長>

我々の今の生活とは違う、昔の人達の暮らしを復元していく中では、大事な一つの証拠になると思います。何らかの形で保存するのは非常に有効かと思います。

<中江委員>

例えば、建築でも、建築文化財とかは、その建物が今残っていることによって、それが建った当時の風景を想起させてくれる、非常に重要なものだと思います。

今回、森先生のお話を伺いながら、この場所が農村であったことを想起させるものがなかなか無い中で、ここでの習俗を想起することによって、ここは農村であった、元は農村で、それが先程もお話で出ていましたように、郊外住宅地や別荘地として発展していく、その前の段階を示す非常に重要なものでもあると思いますので、私としては、ぜひ指定して確実に残していくという方策をとるのが重要と思います。

<戸田副委員長>

おっしゃるように近代以降、農村部が都市化されていく時に、都市化の有り様というのは一律で、その前の有り様というのが、可視化できなくなってしまいます。

村落組織の年齢通過儀礼の一環として使用された力石が残っていることで、地域のストーリーを知れると思います。無造作に置いてあるのもすごくリアルで良いのですが、これからの保存のことなどを考慮していただいて、民俗学的な背景もわかるような形で残していただけたら良いと思います。

<事務局：竹村>

それでは、力石につきましては、市指定に向けて、民俗担当の森委員と協議しながら、調査に取り組んでいきたいと思います。